

災害から命を守るプログラム ～①洪水～



昭和22年9月カスリン台風



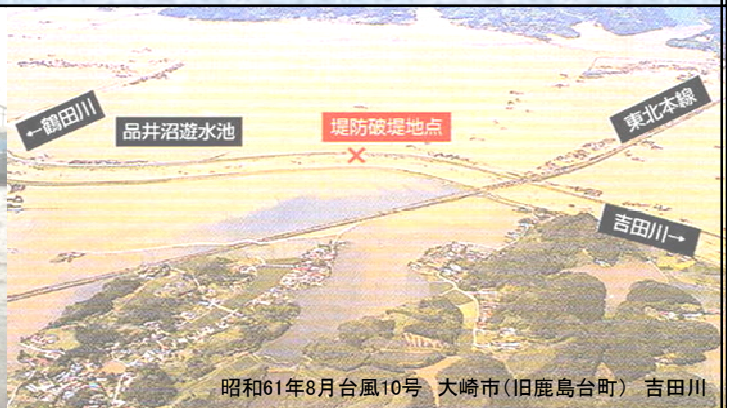
昭和23年9月アイオン台風

# 水害から**命**を守るプログラム

ソフト  
～柔をもって豪雨を制す～



昭和61年8月台風10号 仙台市立病院前



昭和61年8月台風10号 大崎市(旧鹿島台町) 吉田川



平成6年9月 多賀城市



平成6年9月 仙台空港



平成21年10月台風18号 登米市津山町 北沢川



LET'S REVIR



みやぎスマイル・リバー  
マスコット「レビアちゃん」

## 平成24年3月 宮城県土木部河川課

平成21年10月台風18号 栗原市築館 照越川

## 『富県宮城』の実現は安全安心から

宮城県では、“富県宮城”の実現に向けた取組として、産業・経済の飛躍を支える基盤整備として、陸・海・空(道路・港湾・空港)の重点的な整備を進めており、自動車産業の進出をはじめ、着実にその成果が実りつつあります。“富県宮城”を実現する上で、常にその根底にあるのが、“地域の安全安心”です。



八幡川防潮水門の被災状況(南三陸町)

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、甚大な被害と共に、想定を超える災害に備える必要性を、痛感させられました。

震災を契機として、地震・津波対策の関心が高まっていますが、水害への防災意識は薄まってきてはいないでしょうか？

津波の影響がない内陸域の河川も甚大な被害を受けました。地盤沈下の影響が大きい低平地では、相対的に河川水位が上昇しています。震災によって、治水安全度は低下しているのです。

近年、地球温暖化に伴う気候変化の影響と考えられる台風の強大化や、局地的豪雨の頻発化が表面化しつつあり、災害リスクが高まっています。県では、一日も早い震災からの復旧・復興に取り組んでいるところですが、行政による施設整備だけでは、想定を超える災害を防ぐことはできません。行政と住民が一体となり、総ぐるみで防災に取り組むことが必要となっています。

## 『水害から命を守るプログラム』の基本的な方針

河川の改修は、何十年に一度の確率で発生する大雨や、戦後最大の降雨等を対象とした計画に基づき、整備を進めています。しかし、過去の記録や想定を超える規模の災害は、いつか必ず発生します。

総合的な治水対策や防災対策においては、堤防やダム of 整備といったハード対策と、ハザードマップをはじめとする自助・共助の確立に向けたソフト対策が両輪となります。

ハード対策は、施設整備が完了した時点で防災効果が発揮されますが、ソフト対策は、その情報を住民が有効に活用しなければ、全く効果が発揮されません。これはソフト対策の宿命です。

防災に関する情報を、より効果的に県民のみなさまに届けるためには、どうしたらよいのだろうか。この問題を解消するために立ち上げたのが「水害から命を守るプログラム」です。

本プログラムでは、洪水ハザードマップをきっかけとして、水害への防災意識を向上し、水害を正しく知り、日ごろからの備えを高めるための施策を取りまとめており、本来、住民一人ひとりが有している、「自助」、「共助」の力を掘り起こし、「公助」と連携することによって、県全体の防災力を向上することを目標としています。



地域防災の3つの柱

ハザードマップをはじめとする防災情報を有効活用するためのプロセスは、災害の種類を問わず同じです。情報をより効果的に届け、住民自ら防災に備えるための取組を“手助けするツール”として、本プログラムの施策は、津波防災や土砂災害など、他の災害にも応用できると思います。

全ての災害から大切な命を守るために！ 県民のみなさまと共に取組を広げていきたいと考えています。

# 具体的な施策の内容 ~作成から周知, 理解, そして活用まで~

洪水に対応するために、住民と行政それぞれが水害を正しく知り、防災意識を高め、被害を最小限に留める自発的な行動や、行政における災害対応力の強化に向けた施策を実施します。

## 1. 洪水ハザードマップを効果的に作成(更新)し、水害リスクと避難方法を正しく知らせる施策

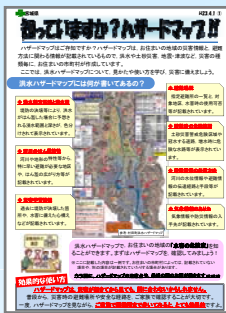


洪水ハザードマップ更新チェックポイント



防災かわら版

## 2. 水害について知るきっかけを与え、洪水ハザードマップの認識を高める施策



ハザードマップ概要紹介チラシ



県政だより・市町村広報



パネル展



シンポジウム・講演会

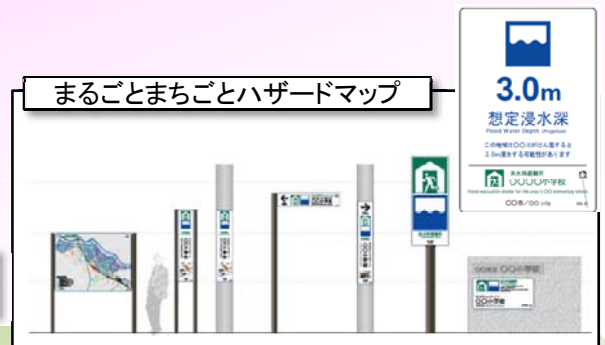
## 3. 水害や洪水ハザードマップを正しく学び、災害時に自発的な正しい行動を促すための施策



対象者別パンフレットと出前講座・学習支援

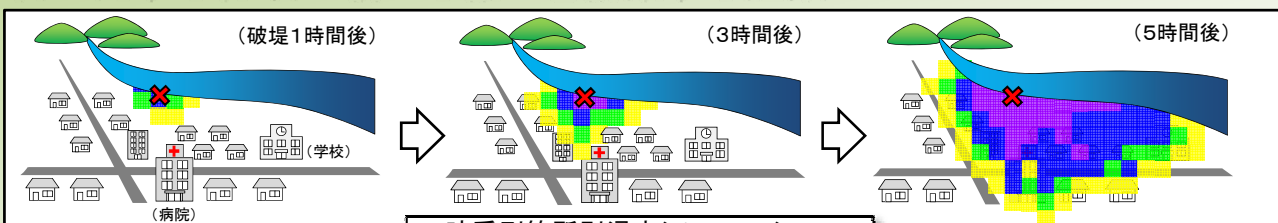


(仮)住民参加型防災マップ作成ガイドライン



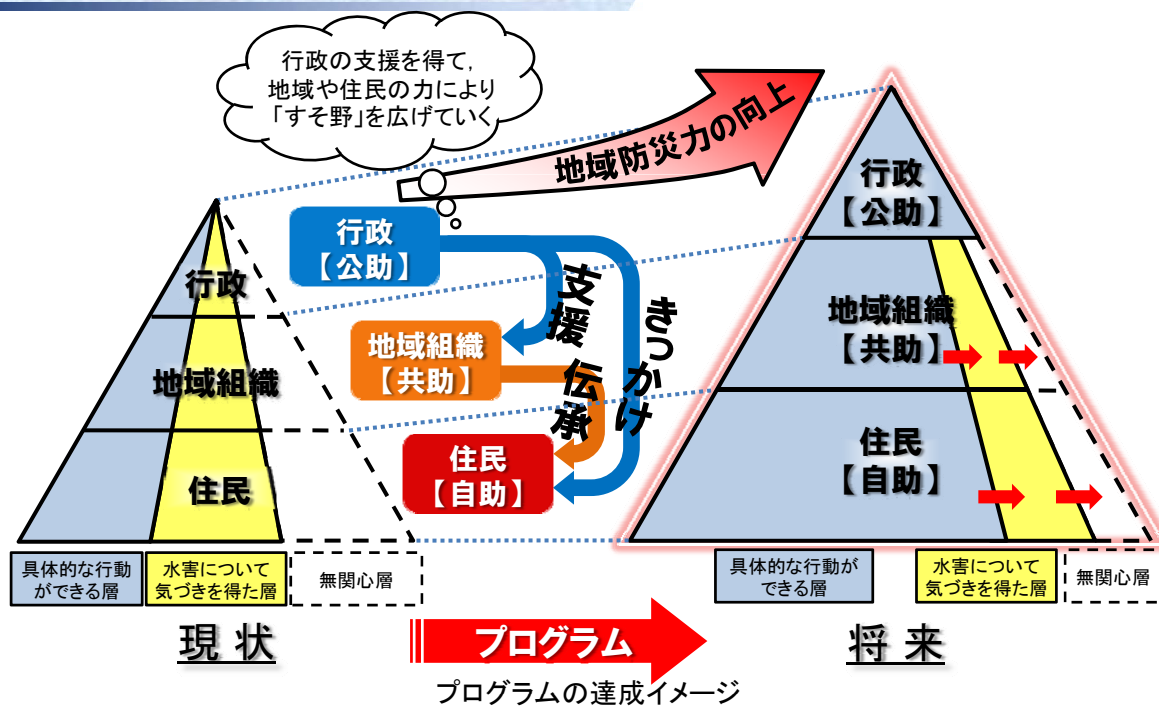
まるごとまちごとハザードマップ

## 4. 洪水ハザードマップを積極的に活用し、水害に対する行政の新たな備えを構築する施策



時系列箇所別浸水シミュレーション

# プログラムの達成イメージ



現状では、水害に無関心な層や、水害に気づいているが正しい行動(具体的な行動)にはつなげられない人の割合が多く、地域防災力は高くはないと考えられます。

本プログラムは、まずは行政が正しく水害を知って備えを高めることから始まります。行政が地域活動を支援し、住民に水害に備えるきっかけを与えます。その中で地域の防災リーダーを育成し、水害への備えが後世に伝承されるように促します。

これらにより、正しい行動ができる人の割合を徐々に増加させ、県全体の地域防災力を向上させます。

# 備えがあれば、憂いは無い。

防災の基本は「居安思危」。平常時から危険を思い、事前に備えることの大切さを説いています。

## 居安思危 (こあんしき)

居安思危 思則有備 有備無患

安きに居りて危きを思う

思えばすなわち備えあり

備えあれば患い無し

出典：孔子の編集の史書「春秋」の注釈書「春秋左氏伝」(前480年頃)、左丘明の作と伝えられています。

### ■ お問い合わせ ■

#### 宮城県 土木部 河川課

〒980-8570

宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号

TEL:022-211-3173 FAX:022-211-3197

E-mail:[kasen01@pref.miyagi.jp](mailto:kasen01@pref.miyagi.jp)

### ■ 企画・作成 ■

#### 洪水ハザードマップ活用

#### プロジェクトチーム (H24.3)

REVIR



みやぎスマイル・リバー  
マスコット「レビアちゃん」